

『多様な考え方や感じ方にふれ、道徳的価値の自覚を深める』姿

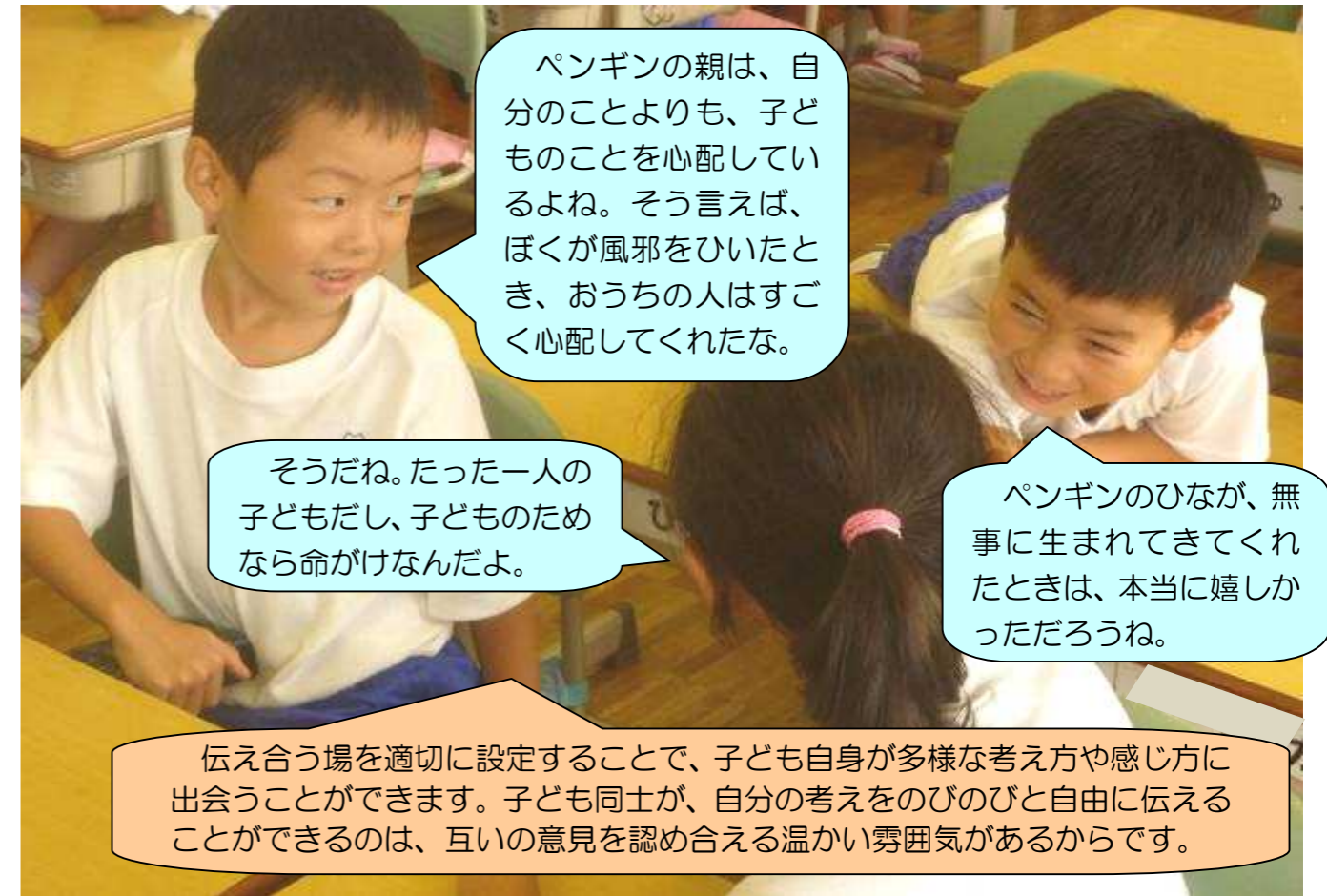
主 題 名 「大切にされている命」
内 容 項 目 D 生命の尊さ
教 材 名 「ペンギンのあかちゃん」 出典『こころゆたかに』（静岡教育出版社）
本時のねらい 自分の誕生や成長に対して、愛情を持って育てている家族の思いに気付くことにより、自分の命を大切にしようとする心情を育む。

本時の授業について

教材「ペンギンのあかちゃん」を通して、子どもは親の立場から「大切にされている命」という主題で考えていました。自分の誕生を心待ちにしていた家族の思いや、愛情を持って育ててくれている家族の思いを考えることで、自分の命を大切にしようとする心情を育んでいく授業です。

ペンギンが、過酷な環境の中で子育てをしていることを、教材文だけでなく、DVDでもふれることで、子どもは、子育てをすることが命がけであることを感じました。その後、赤ちゃんペンギンを囲みながら、ペンギンの両親が話している場面の役割演技を行いました。子どもは、ペンギンや自分のお父さんやお母さんがどのような思いで子育てをしているのかを考える活動を通して、自分が受けている親の深い愛情を思い起こしながら、子を思う親の気持ちを想像して言葉に表しました。

さらに、家族からの手紙を授業の終末に読むことで、今まで自分が大切にされてきたことを実感し、親への感謝とともに、自分の命を大切にしようという思いを膨らめていました。



ペンギンの親は、自分のことよりも、子どものことを心配しているよね。そう言えば、ぼくが風邪をひいたとき、おうちの人はずごく心配してくれたな。

そうだね。たった一人の子どもだし、子どものためなら命がけなんだよ。

ペンギンのひなが、無事に生まれてきてくれたときは、本当に嬉しかったらうね。

伝え合う場を適切に設定することで、子ども自身が多様な考え方や感じ方に出会うことができます。子ども同士が、自分の考えをのびのびと自由に伝えることができるのは、互いの意見を認め合える温かい雰囲気があるからです。

多様な考え方や感じ方に気付くことができる場の設定



4か月間、何も食べずに卵を守ってくれて、ありがとう。

子どものために頑張ったよ。生まれてきてくれて、よかったね。

寒さや敵に負けないで、子どものためにえさを捕ってきてくれてありがとう。

元気に大きく育ててほしいね。

卵から出てきたペンギンのぬいぐるみは、子どもにとって大変魅力的で、ペンギンの両親の気持ちを想像する一助となりました。

友達の役割演技を見たり、その感想をペアで交流したりすることは、自分の考え方や感じ方との違いに気づき、新たな価値観を感じ取ると同時に、自分の命について深く考える手立てとなりました。

子どもは、ペアで役割演技を行うことにより、命がけで子育てをするペンギンの両親の思いを想像していました。子どもの言葉には、ペンギンの両親と自分の親を重ねて考えたと思われる言葉もありました。教師は役割演技をしている子どもの言葉や、演技を見ていた子どもの感想に共感しながら、ねらいとする価値を自分との関わりで考えられるように「赤ちゃんにどんな言葉を掛けていると思う？」などと問い返していました。

子どもの考え方や感じ方一つ一つに共感する教師の姿が子どもの安心感を生み出し、学級が子どもの居場所となっていくことが分かります。

子どもの誕生を心待ちにしていた家族からの手紙を読むことで、道徳的価値を自分との関わりで考えることができました。



授業の終末において、子どもは、一字一句食い入るように家族からの手紙を読み、「私もこんなに大切に育てられていたんだ。自分がもらった命を大事にしよう。」と、家族の思いに気づき、自分の命を大切にしようとする心情を膨らめていきました。

このような内容の活動においては、子どもの実態や多様な家族の在り方等に配慮しつつ工夫することで、道徳的価値の自覚が深まっています。

『自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自分の考えを深める』姿

主 題 名 「法やきまりの意義」
内 容 項 目 C 遵法精神・公德心
教 材 名 「二つのきまり」 出典『心ゆたかに』（静岡教育出版社）
本時のねらい きまりの意義や理由を考え、積極的に守っていこうとする意欲や態度を育てる。

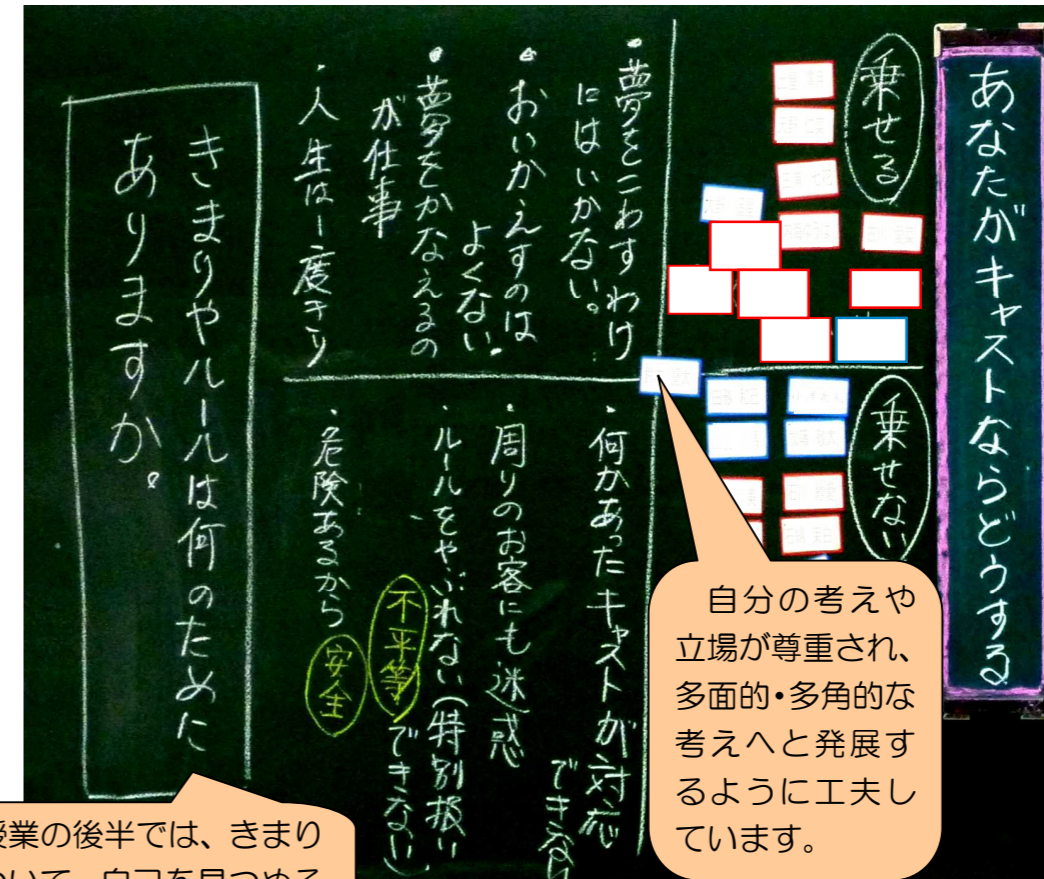
本時の授業について

本時のねらいは、きまりの意義や理由を考え、きまりを守っていこうとする意欲や態度を育てることでした。導入では、身の回りにある「きまり」にはどんなものがあるかを問い掛けて、授業でねらう道徳的価値への方向付けを行いました。

展開において、「ジェットコースターでは、足の不自由なゲストは利用できない」というきまりがある中、「責任は自分が取るから乗りたい」と主張し続けたゲストに対して「あなたがキャストならどうしますか」と中心発問を投げ掛けました。

高木先生は、子どもが自分の考えを持ったことを確認してから、周りの子ども同士で意見交換する場を設定し、全体での意見交換へとつなげていきました。全体の意見交換では、積極的にそれぞれの意見を出し合い、多面的・多角的な議論が展開されていきました。

高木先生は最後に、「何のためにきまりやルールがあるのだろう」と問い掛けました。子どもは身の回りがあるきまりやルールについて改めて考えることを通して、きまりを守ることにより自分もみんなも守られていることを意識するとともに、今までの自分の生活を振り返り、自己を見つめることにつなげていきました。



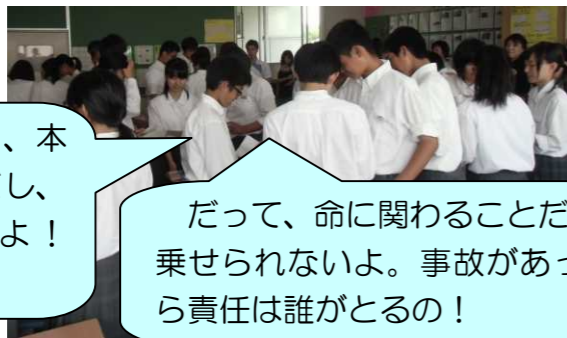
授業の後半では、きまりについて、自己を見つめる場面を設定しています。

自分の考えや立場が尊重され、多面的・多角的な考えへと発展するように工夫しています。

導入での子どもの発言を板書に残すことによって、自己の振り返りに有効となります。

広い視野から多面的・多角的に考えるために

高木先生は、はじめに子どもが自分の考えを明確にするため、ネームプレートを黒板に貼る活動を取り入れました。その際、決定できずにネームプレートを選択肢の真ん中に置いた子どもの「その人の思いを優先するか、安全面を優先するか」という迷いを取り上げ、全体で広い視野から多面的・多角的に道徳的価値について考えることを大切にしました。子どもは黒板を見たり意見交換したりすることで、自分の考えとは異なる考え方や感じ方に触れ、自分の考えを深めていきました。



きまりだけど、本人の強い希望だし、かわいそうだよ！乗せるべき。

だって、命に関わることだよ。乗せられないよ。事故があったら責任は誰がとるの！

同じ意見の倫菜さんと話し合ってみてごらん。



次に、高木先生は子どもの対話に耳を傾けながらメモを取り、あえて同じ考えの友達とも対話をするように促しました。

このことにより、子どもは、同じ考えであっても、理由はそれぞれ異なることに気付き、様々な角度から考えることができました。

このように、多様な価値観に触れながら、様々な角度から問題の本質を総合的に捉えた上で、自己を見つめ、いかに生きるかについて主体的に考えることが大切です。

生き方についての考えを深めるために

授業の後半において高木先生は、導入で扱ったきまりの意義や理由に戻り「何のためにきまりやルールがあるのだろう」と、教材から離れて価値理解を基にした問い掛けをしました。

子どもたちはこれまでの授業中の会話をもとに、「人間として生きていく上で、安心・安全に生きていくためのもの」「だれもが、楽しく暮らすことができ、命を保障するためのもの」などと自分の生活を振り返りました。このことが、人間として生きていく上で大切なものは何か、自分はどうあるべきなのかを考える時間となりました。



中学校の道徳の授業では、こうした道徳的諸価値の理解を基にして、自己を見つめ、人間としての生き方についての考えを深める学習が大切です。

書く時間を十分に確保することは、自己との対話を促すことに繋がります。